

湖沼の特別域検討に係る基本的な情報

1. 日本の淡水性魚介類の繁殖生態

現在、日本にはおよそ 150~170 種程の淡水魚が生息しており、各々さまざまな生活環の中で淡水環境に依存し、生息している。

日本の淡水性魚介類のうち、一般に有用種・代表種とされる魚介類の生態特性を表 1.1 に整理した。

淡水性魚介類のうち、湖沼を主な産卵場・生育場とする代表的な魚介類としてはコイ科・キュウリウオ科・ナマズ科・メダカ科・ハゼ科・カジカ科等の魚種があげられる。

これら魚種の産卵場を見ると（図 1.1）、抽水植物や沈水植物、流れ藻・浮き草等の水生植物を利用する種が全体の約 40%を占めており、砂・礫・石を利用する種が 37%、二枚貝を利用する種が 14%を占めている。生育場についても見ると、抽水植物や沈水植物、流れ藻・浮き草等の水生植物を利用する種が全体の約 60%を占めており、砂・礫・石を利用する種が 24%、特定の「場」に依存しない水域を利用する種は 12%を占めている。

また、産卵場・生育場の水深帯を見ると、浅水域を利用する種が多く、概ね水深 10m 以浅に水生植物帯、砂・礫・石帯、二枚貝が分布しているものと考えられる。

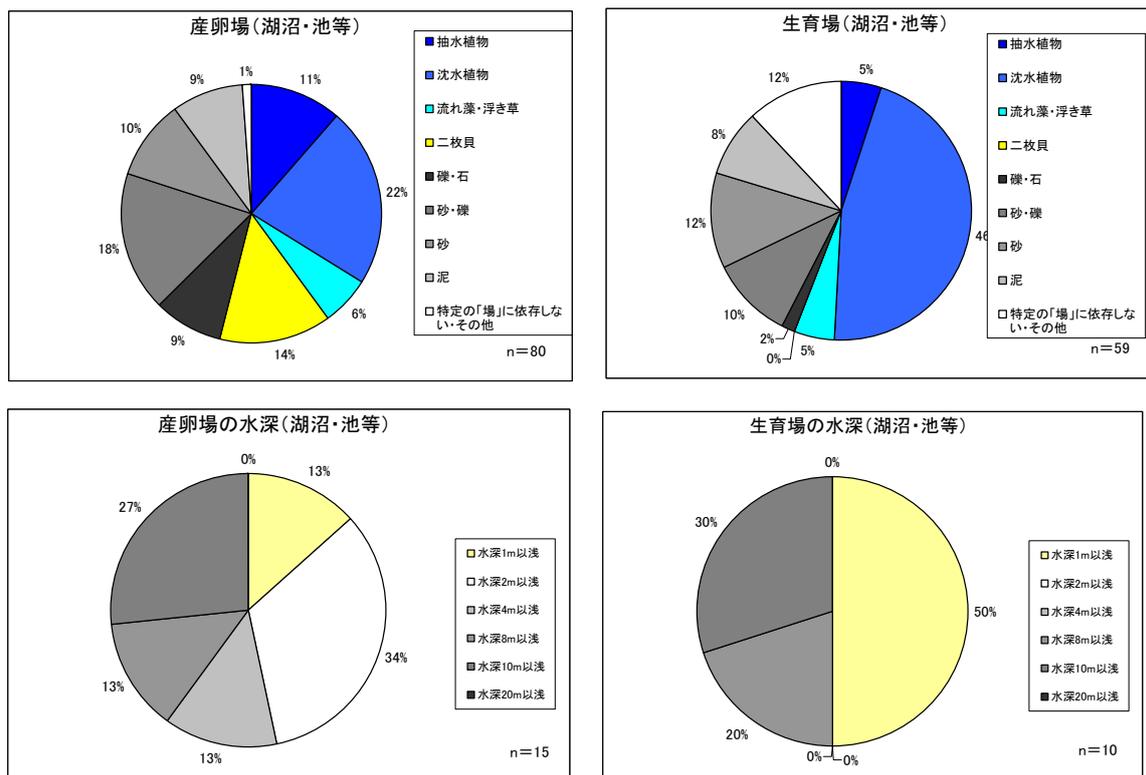


図 1.1 湖沼等における代表的な魚介類の産卵場・生育場及び水深帯

